

岡島冠山著『唐話纂要』の 「常言」に関する一考察 — その出典と受容した教訓を中心として —

高橋 強
耿 蘭

目次

はじめに

1. 岡島冠山について
2. 『唐話纂要』について
3. 「常言」の出典
 - 3-1. 「白話小説」等
 - 3-2. 『明心宝鑑』
4. 「常言」に見る人生訓、処世訓
 - 4-1. 『水滸伝』の視点から
 - 4-2. 『明心宝鑑』の視点から
 - 4-2-1. 「省心篇」
 - 4-2-2. 「継善篇」
 - 4-2-3. 「正己篇」
 - 4-2-4. ①「天理篇」、②「存心篇」、③「順命篇」、④「治家篇」、
⑤「孝行篇」、⑥「安分篇」、⑦「戒性篇」、⑧「訓子篇」、
⑨「立教篇」、⑩「安義篇」
5. むすびに

はじめに

18世紀後半の日本において、唐話（中国語）学習ブームがあった。そのブームに大きな影響を与えた辞書或いは教科書がある。それは『唐話纂要』で、最初の唐話入門書であり、しかもそれ以後の追随を許さぬ程のものであったと言われる。同書は唐通事（稽古通事）出身の岡島冠山によって著された。同ブームの特色の一つに唐話を音読で学習するという方法がある。従って『唐話纂要』には中国語の読み方（今日、それを唐音と称する）が付されている。同書は学習過程として、二字中国語、三字中国語、そして最後には六字中国語を使って、まず会話を通して学習に取り組んでいる。その後に142条の「常言」（通俗ことわざ）が置かれている。会話を通して学習した後に、次は文を教材にして更なる唐話のレベルアップを目指したのであろう。

これまでこの「常言」に関しては、少なからず研究されて来ており、その成果も少なくない。しかしながら、会話学習の後に何故にそんな多くの「常言」が置かれたのか、またその配列の順番はどのようなルールに基づくのか、更にどのような教訓が記載されているのか等については、あまり明確にされてこなかった。本稿は以上のような問題点を明らかにすることを試みる。

1. 岡島冠山について

岡島冠山（1674-1728・延宝2年-享保13年）は、江戸時代中期の漢学者（宋学に通じていたといわれる）で、名は明敬、のちに璞、字は援之、または玉成で、通称は弥太夫と呼ばれた。⁽¹⁾

冠山は長崎で生まれ十五歳の時、南京内通事（稽古通事）に従事しながら唐話を国思靖（別名を上野玄貞、1661-1713）に学んだ。語学の才能については卓越していたといわれる。国思靖は杭州海寧の儒者蔣眉山に、また渡

来僧で興福寺の四代住職を務めた澄一道亮に中国語を学んでいる。国思靖はのちに興福寺下に私塾福源社学を開いたが、冠山はその私塾の門弟にいた。『崎陽熙々子先生華学圈套』は国思靖の著作として残る写本である。全体は十二支の数に趣味的な諸芸（中国の音曲、小説、茶、将棋など）を集めたもので、子・丑の2巻が欠けているが、寅から亥までが残っている。二十歳の時（1692）、荻藩の毛利吉就に仕えたが致仕して長崎へ帰り、南京内通事として働いた。二十九歳の時（1701）、「生活が逼迫して渡世困難、他国へ出て商売でもしたい」との理由で、職を辞している。

三十二歳の時（1704）、江戸に出て、秋頃、書肆、林義端と会い英烈・水滸の二つの翻訳を依頼されている。三十九歳の時（1711）、荻生徂徠の護園学派の人々が開いた唐話学の講習会「訳社」の講師となり、以後江戸における唐話学の普及に努めた。門下に多くの唐話学者を輩出するとともに、江戸と京都との学問的交流の道を開いた。唐話学研究ブームは中国白話（口語体）小説への傾倒を促した。

後に京都へ上り、1728（享保13）年、中国白話小説『忠義水滸伝』に訓点を付して翻刻したが、10回まで刊行して没（没後20回まで刊行）。1757（宝暦7）年に『忠義水滸伝』の和訳『通俗忠義水滸伝』が、1790（寛政2）年にその『拾遺』がそれぞれ遺稿として刊行され、読本流行の端緒となった。

以下は冠山の主な業績である。

- ①1705（宝永2）年3月、『通俗皇明英烈伝』20巻を翻訳した。
- ②1716（享保元）年9月、『唐話纂要』半紙本5巻5冊の初刊が発刊された。『唐話類纂』（未刊）には、明らかに『唐話纂要』の原型的要素の痕跡があることが認められる。
- ③1719（享保4）年には『太平記演義』5巻30回を著述した。この本は日本の『太平記』を『水滸伝』や『三国志演義』のような中国風の演義体の白話小説に仕立てたものである。

- ④1723（享保8）年、『康熙帝遺紹』1巻、冠山口読として江戸・板木屋甚四郎から刊行した。
- ⑤1725（享保10）年9月には『字海便覧』7巻7冊を刊行。
- ⑥1726（享保11）年には『唐訳便覧』5巻5冊を刊行。
- ⑦1726（享保11）年には『唐話雅俗語類』5巻5冊を刊行。
- ⑧1726（享保11）年11月には『唐音三体詩訳読』3巻3冊を刊行。
- ⑨1727（享保12）年には『唐音学庸』乾坤2冊を刊行。
- ⑩1735（享保20）年には『唐話使用』6巻6冊を刊行。

このような冠山の活動は、唐話に関する言語習得の拡がりをもたらし、唐話辞書、俗語辞書の編纂、白話小説、通俗物の流行、さらには読本の発生に繋がっていった。

2. 『唐話纂要』について

『唐話纂要』は、岡島冠山が編集した最初の辞書で、その初刊は1716（享保元）年9月であった。その後1718（享保3）年1月に巻六「和漢奇談」を追加して再刊された。この部分は冠山の創作と思われる「孫八救人得福」と「徳容行善有報」という長崎を舞台にした短編白話小説風の物語である。⁽²⁾

冠山は南京内通事であったから『唐話纂要』の唐話は南京語系であったと考えられる。またその南京語には、先生の国思靖の先師は浙江省杭州府錢塘県からきた澄一道亮と杭州の儒者蔣眉山であったので、杭州の訛りが多少入っていたのではないかと推測されている。⁽³⁾

「各巻の構成」

「巻之一」

二字話「太平」以下26ページ、153行、765語

三字話「有才華」以下20ページ、119行、476語

「卷之二」

四字話「今日何往」以下40ページ、238行、714例

「卷之三」

五字話「今日天色好」以下20ページ、118行、118例

六字話「今朝天氣不好」以下20ページ、118行、118例

常言「平常不作虚亏心事、半夜敲门不喫驚」以下22ページ、142例

「卷之四」

長短話「今天下太平。四海無事。上憫下勞。下沐上恩。歡声四起。朝野俱樂。而重值堯舜之時也。恭喜恭喜」以下40ページ、57例、28組の對話形式

「卷之五」

親族114個、器用432個、畜獸48個、蟲介110個、禽鳥82個、龍魚105個、米穀40個、菜蔬90個、果蔬47個、樹竹67個、花艸100個、船具87個、数目33個、小曲10曲（青山、崔鶯、張君、桃花、一愛、一更、二更、三更、四更、五更）、疋頭37個

「卷之六」

和漢奇談 有點四聲（去入上平）「孫八救人得福」の寓話文、16ページ、125行、2334字。

翻譯文「奇談通俗 孫八救人得福事二」と「徳容行善有報」13ページ分、104行、1951字、翻譯文

（「奇談」とは教訓・啓蒙を目的とし、語りの場を枠組みとしてもつ、面白い話を集めたもの。）

各巻の構成から概観するに、学習法としては、以下のような過程が考えられる。まず学習者は二字から始め、二字から三字へ、三字から四字へと、短い句から徐々に長い句へと、傍注に基づいて発音練習を繰り返し、暗唱す

る。そして、最終的には、「常言」から「長短話」という完全な文を話すことができるようになることを目指す。このように「二字話」「三字話」と順序立てて学習する方法がとられているので、「二字話」「三字話」という分類は、検索に資するためのものではないとの指摘もある。この観点にたてば、『唐話纂要』はむしろ「辞書」ではなく「教科書」ということになる。⁽⁴⁾

注解方式は、①見出し語を挙げて、傍らにその漢字の中国語の発音をカタカナで表記し、②見出し語の下に、カタカナで和訳を記し、③「長」「好」「中」「行」のように意味の違いによって中国語の発音に変化する字には、「○」を付し、④長い熟語（あるいは慣用句）には、その傍らに訓点を記している。『唐話纂要』は音読法で唐話を学習するという目的から考えると、何ゆえに訓読が付されているのであろうか。唐話を訓読によって理解したいという需要があったとの指摘もある。⁽⁵⁾ なお本書では「卷之六」のみに声調の記載がある。

3. 「常言」の出典

「常言」は『唐話纂要』の「卷之三」の中に置かれている。「常言」の表示の仕方は、前述の注解方式と同じである。なおここでも同じような疑問が出てくる。即ち中国語を音読を通して学習する為に編集された『唐話纂要』にもかかわらず、何ゆえに訓読が付されているのであろうか。一つは学習者への便宜が考えられるが、一方、当時の儒者たちに対し、冠山の卓越した語学力に加えて、日本の儒者の伝統である「訓読」の能力を有していることを示すためであったとも言われる。⁽⁶⁾

会話の次の教材として「常言」が選ばれたのはなぜであろうか。「常言」を教材として選んだ背景には、唐通事の中国語教育の独自のスタイルがあったと考えられる。⁽⁷⁾ 唐通事は語学学習の必要性から、『唐通事心得』『長短拾話

唐話』『訳家必備』『琼浦佳話』『小孩児』『官話纂』『養兒子』など多くの官話による通事本を残した。そしてその特徴は、①平易かつ口語的な「官話」による記述、②人生訓・処世訓が主なテーマ、③中国の「話本小説」の体裁による記述であった。即ち「話本小説」の枠組みの中に、目前の教育譚が注ぎ込まれたのである。

当時の中国の話本小説は、忠義、孝弟友愛などの五倫道德、勸善懲惡・因果応報などが主題であったので、ここでいう教育譚とは主にこのような内容であった。唐通事は通事本を通し、官話と教訓・職業倫理を身につけていったのである。唐通事にとって語学の学習とは、一方で口語的な官話を学び、同時に人生訓・処世訓を身につけることであった。

「常言」を教材として選んだもう一つの背景として、冠山が『通俗皇明英烈伝』の翻訳や、『水滸伝』の翻訳準備等を通し、そこから得られる人生訓・処世訓に高い関心を持ち続けていたと推測することができる。宝永2年の『通俗皇明英烈伝』の序文には、冠山に英烈水滸の二伝の翻訳を伝えた旨の記述があり、その当時すでに水滸伝翻訳の計画があったと言われる。この計画は冠山の『忠義水滸伝』に訓点を付した翻刻を経て、彼の没後1757（宝暦7）年に『忠義水滸伝』の和訳『通俗忠義水滸伝』として刊行され実現している。なお1726（享保11）年発刊の『唐話雅俗語類』には『水滸伝』の文句が出てくる。⁽⁸⁾

「常言」に関する研究について種々の課題はあるが、その中の一つに「常言」の出現順の問題がある。従来、その出現順の原則について、①成語、格言、俗諺など項目ごとの性質、文字数、②読み方（唐音）との関連性、③常用される使用頻度、④難易度の傾斜等の観点からの試みがあったが、いまだ明確な原則は見出せない。⁽⁹⁾

そこで本稿では各条目の出典の調査を試みた。その成果は「表1」に表されている。（「表1」参照）

表 1

番号	本文	唐音	解釈	出典	属篇	順	出典の言い方
1	平常不作盛亏 心事、半夜敲 門不喫驚	ビシヤ、ヤブ、ソコイ スウズ、カ、シヤキ。 ウシキヤ	平日ウシロ。クラキコトヲセザ ハ。半夜二門ヲタ、ケとも驚クコ トアラス	明心宝鑑 ①西遊記 ②増広賢文 ③白兔記 ④水滸伝 ⑤古今小説	《新刻前賢 切要明心宝 鑑》(1)		平生不做亏心事、半夜敲門心不 驚
2	欲要生富貴須 下死工夫	ヨヤ、ウズ、エウカクイ ス、ヒヤクココツク	フウキニナラント思ハ、ズイブ ン工夫ヲイタスベシ				①②③欲求生富貴、須下死工夫 ④欲求生快活、須下苦功夫 ⑤欲求生受用、須下死工夫
3	把官踏當人情	バ、カハ、ロカクツク バ	シフトノ物デ。アイムコ。モテナ スト云フこと	水滸伝			同じ
4	借花供佛	ツ、ハ、コカエ	同上	①殺狗勸夫 ②過去現在因果 経			①借花献佛 ②請寄二花以献于佛"
5	家醜不可外揚	ヤツカガ、コウヤ ヤ	家内ノ。アシキコトラハ。外ニモ ラスナ	①五灯会元 ②檀世恒言 ③二刻拍案驚奇			①家醜不外揚 ②③同じ
6	猫頭上子魚	マ、ケデ、ウジ、ヤ カ、イ	ザコニ。ナマイハイシト云フこと	一			
7	只有錦上添花 那得雪中送炭	チヨキンジ、ヤチンヤ 、ア、アエホヨツ ツク	フウキノ者ニハ。ヒタスヲ物ヲ送 レとも。ヒンセンノ者ニハ。何モ 送ラスト云フこと	①平妖伝 ②初刻拍案驚奇			①只有錦上添花、哪管雪中送炭 ②只有雪中送炭
8	蝦蟆在天井裡 想天鵝肉喫	ヒヤマ、アイトツ ン、リスヤエ、ウ 、キ	カナハヌことヲ思フこと	①平妖伝 ②儒林外史 ③紅樓夢			①癩蝦蟆想著天鵝肉喫 ②癩蛤蟆想喫起天鵝肉 ③癩蛤蟆想喫天鵝肉
9	水中捞月	スイボウ、ウ	同上	沁園春			水中捉月
10	比上不足下 有餘	ヒ、イ、ヤブ、アホイ ヒヤクココイ	上ヲ見ハ。限リハナケレとも。下 ヲ見レハ。マダヨヒト云フこと	①大一生水 ②三箱決録 ③鷓鴣賦			①不足于上者、有餘于下、不足 于下者、有餘于上。 ②上比崔杼不足、下比羅趙有餘。 ③将以上方不足而下比有餘

11	三人出外・小 的兒苦	サンジヤン・チヤウイキヤ。 好ハカク	三人打ツレテ。タビヨスルトキ ハ。ワカキ者ガ辛勞ヲスル	①蝴蝶夢 ②西遊記 水語伝			①三人同行小的苦 ②三人外出小的苦
12	行路防跌喫飯 防噎	ヒヤウハンテキヤハンハン イ	用心シタガヨヒト云フこと	水語伝			第十回：喫飯防噎、走路防跌 三十三回：喫飯防噎、行路防跌
13	寧可信其有 不可信其無	ニヤウスイギ・イユウ ・ユウスイギ・ウ	イツソ。目二見テ。有ルことヲ。 マコト、ソ。目二見スソ。無キこ とハ。マコトニスナ	①益儿鬼 ②増広賢文 ③封神演義			①②同じ ③寧可信有、不可信無
14	好事不如無	ハ。ウズ・ウブ・ジ・エイ ウ	ヨキことモ。ナキニハ。如ス	①明心宝鑑 ②金剛随机無尽 頌・淨心行善分 頌	11.13		同じ
15	好事不出門 惡事傳千里	ハ。ウズ・ウブ・チユビ ンヤス・ウチ・エツクエリ イ	ヨキことハ。門ヨリ外二聞エスシ テ。アシキことハ。千里ノ外エ 聞ユ	①景德伝灯録 ②水語伝			①好事不出門、惡事行千里 ②好事不出門、惡事伝千里
16	走三家不如坐 一家	ツウサンカヤアア・ジユ イ・ヤキヤ?	方々ニ。アルカズトモ。コ、ニ 居ヨト云こと	西遊記			走三（三回五十回） / 千（十回） 家不如坐一家
17	過則勿懼改	コウゴクガクンカイ	アヤマリアラハ憚ラズ改ムヘシ	論語・学而			同じ
18	好漢借好漢程 猩猩猩猩	ハ。ウハツンズエハ。ウ ハツンズインズインズ ンズイン	豪傑ハ。豪傑ヲオシシミ。猩猩ハ。 猩猩ヲオシム	水語伝			第一回、猩猩借猩猩、好漢識好 漢 十九回、猩猩借猩猩、好漢借好 漢
19	物悲其類	ウ。ホクイイ	物ハ己カ類ヲ悲ム	①敦煌变文集・ 燕子賦 ②三国志演義 ③水語伝			①狐死兔悲、惡（物）傷其類 ②③兔死狐悲、物傷其類
20	兔死狐悲	トウシホクイ	類ル上下同シ意	①敦煌变文集・ 燕子賦 ②宋史、李全伝 ③麟圃通 ④三国志演義 ⑤水語伝			①狐死兔悲、惡（物）傷其類 ②兔死兔泣 ③同じ ④⑤兔死狐悲、物傷其類
21	一不做二不休	イツ・フツ、ウブヒク	イタササズハ。イタサス。イタシ カ、リテハ。ヤメス	①奉天録 ②三俠五義			①第一莫作、第二莫休 ②同じ

22	單絲難織孤掌不鳴	カハナハスエシクカキナシ グシ	獨りニテハ。何事モ成就シガタシト云こと	①三国志演義 ②東周列国志 ③西游記 ④水滸伝 ⑤醒世姻缘伝			①②孤掌難鳴 ③④⑤单糸不線、孤掌難鳴
23	如漆似膠	ジユイツウキヤ。 ウ	中ノヨヒこと	①史記・魯仲連 鄒陽列伝 ②水滸伝 ③喻世明言			①以胶投漆中、誰能別离此 ②③如胶似漆
24	如魚似水	ジユイスイ。 ウイ	同上	①警世通言 ②喻世明言 ③東周列国志			同じ
25	虎不食伏肉	クハシキジヨ	向フ顔ニ。矢タ、ズト云こと	水滸伝			大虫不喫伏肉
26	虎不生狗	クハシキヨ。 ウ	親ガヨケレハ。ワルヒ子ハ。ウマヌト云こと	三国志演義			虎父無犬子
27	不怕官只怕管	アバア、カハチガ ア、カン	公儀ハ。コハクナクシテ。支配スル人ガ。コハイト云こと	水滸伝			同じ
28	官無三日禁	カハク、サジキ ン	公儀ノ三日法度ト云こと	①古今小説・臨 安里錢婆留髮記 (喻世明言の初 刻本) ②喻世明言 ③説唐三伝			①②官無三日禁 ③同じ
29	官不容針 通車馬	カハク、サジキ 。ヨシキスウシチエ、 マ、	オモテムキハ。キビシケレトモ。内シヤウハ。ユルヤカナト云こと	①偈六十三首其 一 ②五灯会元			同じ
30	有錢可以通神	エウケンコウイ、トン 、ン	錢サエアレハ。神通モナル	①幽閑鼓吹 ②駕鸞被 ③水滸伝			①錢十方可通神矣 ②錢可通神 ③有錢可以通神
31	公人見錢如蒼 虫龜見血	コウシツウツ 。エイザン化ケル	公儀ノ役人ノ錢ヲ見ルハ。ハイノ。血ニタカル、ガ如シ	①水滸伝 ②醒世恒言			①②公人見錢、如蠅子見血

32	遠親不如近鄰 一別	遠君千里終須 一日拜師終身 為父	遠キ親ルイハ。近キ他人ニ如ス	①明心宝鑑 ②水滸伝 ③東堂老 馬陵道	①省心篇	11.231	①②同じ ③岂不聞遠親呵不似我近鄰 同じ 一日為師終身為父
33	送君千里終須 一日拜師終身 為父	送君千里終須 一日拜師終身 為父	ドコマデ送テモ。終ニハ別ルト云 こと 一日師トスレハ。一生父トスル	①太公家教 ②西遊記			
34	殺人須要見血	殺人須要見血	人ヲ殺メハ。タシカニ死タルヲ。 見届ヨト云こと	①続伝灯録 ②水滸伝			①②殺人須見血
35	見豐人分外眼 明	見豐人分外眼 明	カタキヲ見ル眼ハ。別ノ明ト云こ と	①神奴儿 ②水滸伝			①②驢人相見、分外眼明
36	家貧不是貧路 貧愁殺人	家貧不是貧路 貧愁殺人	宿ニテ貧キハ。貧キト云フ者ニハ アラス。旅ニテ貧キハ。人ヲメ愁 殺セレム	①大川普濟禪師 語録 ②張協狀元 ③古尊宿語錄 ④五灯会元 ⑤儒林外史 ⑥西遊記 ⑦隋唐演義			①②③家貧未是貧、路貧愁殺人 ④家貧犹自可、路貧愁殺人 ⑤家貧不是貧、路貧愁殺人 ⑥在家不是貧、路貧愁殺人 ⑦家貧不是貧、路貧愁殺人
37	人不可貌相海 水不可斗量	人不可貌相海 水不可斗量	人ハ。面ヲ見テ。善惡ヲ論スベカ ラス。海水ハ。斗ヲ以テ。量ルベ カラズ	①明心宝鑑 ②西遊記	①省心篇太 公	11.41	①凡人不可貌相、海水不可斗量 ②同じ
38	二虎相鬥必傷 其一	二虎相鬥必傷 其一	勇子ト勇士ト戦バ。必ス其一人ヲ 傷フト云こと	斬鬼伝			二虎相斗、必有一傷
39	寡不可敵衆	寡不可敵衆	小勢ハ大勢ニ敵スベカラズ	①孟子・梁惠王 上 ②韓非子・難三 ③申宗人冤獄書 ④水滸伝 ⑤三國志演義 ⑥東周列國志 ⑦警世通言 ⑧說唐			①寡固不可以敵衆 ②寡不勝衆 ③④⑤⑥⑦⑧寡不敵衆

53	大丈夫一言驪馬難追	ダ、夫、チ、ヤ、ア、カ、ハ ソウダツ、カツキ	大丈夫ノ一言ハ。少シモチガヒナ シト云こと	①論語・顔淵 ②欽析子・軼辭 ③新五代史・高 祖皇后李氏伝 ④伍員吹簫			①夫子之説君子也。驪不及舌 ②一言而非、驪馬不能追；一言而 急、驪馬不能及 ③驪馬難追 ④大丈夫一言既出、驪馬難追、 岂有翻悔之理
54	積善之家必有余慶	ツゼ、ソウカキヤヒ、ユ ケイケン	善ヲツミシ人ノ家ニハ。必ス餘ン ノ慶ヒアリ	明心宝鑑	維善篇	1.8	同じ
55	積不善之家必有余殃	ツヒ、ゼ、ソウカキヤヒ ・、ユケイケン	不善ヲツミシ人ノ家ニハ。必ス餘 ンノ殃ヒアリ	明心宝鑑	維善篇	1.8	同じ
56	面虎面皮難面骨知人知面不知心	ウ、フカア、ヒ、イ カンア、クワウジン ウメツ、ツカシ	虎ヲ面クニハ。皮ハ面ケとも。骨 ヲ面キカダシ。人ヲ知ルニハ。面 ヲ知レとも。心ヲ知ラス	明心宝鑑	省心篇/ 《新刻前賢 切要明心宝 鑑》(1)	11.38	同じ
57	人非義不交物非義不取	ジン、フイニ、イ、キヤ。 ウエニ、イ、ウ、イ	人ハ義ニアラザレハ交ラズ物ハ義 ニアラザレハ取ラズ	明心宝鑑	維善篇康節 邵先生	1.43	人非善不交、物非義不取
58	謀事在身成事在天	ダ、カスウ、ア、ソウヂ ソウ、ウ、イ、イ	事ヲ謀ルハ身ニ在リ。事ヲ成スハ 天ニ在ル	明心宝鑑	天理篇諸葛 武侯曰	2.3	謀事在人、成事在天
59	大富在天小富在勤	ダ、フ、フカウ、ア、イ、ン シヤ、ウ、ウ、ア、イ、ン	大ニ富ことハ。天ニ在リ。小キ 富ことハ。勤ルニ在リ	明心宝鑑	省心篇	11.129	大富由天、小富由勤
60	人間私語天聞若雷暗室虛写心・神目如電	ジン、カン、ク、ユ、イ、ウ、ウ エン、ヤル、イ、ソウ、カ、イ イン、ソ、モ、シ、ユ、イ、ン	人間ニ。ソ、ヤキコトヲ云フヲ ハ。天コレヲ聞こと雷ノ如シ。 暗室ニテ。ウシロクラキコトヲス ルヲハ。神コレヲ見ルこと電の如 シ	明心宝鑑	天理篇玄帝 垂訓	2.7	同じ
61	種瓜得瓜種豆得豆	チ、ウ、ク、ア、ゲ、カ、ハ、イ、ン ヂ、ウ、ヂ、ウ、ウ	善事ヲスレハ。善事ガアルト。惡 事ヲスレハ。惡事ガアルト云こと	明心宝鑑	天理篇 子曰	2.17	同じ
62	人可欺天不可欺	ジン、ウ、カ、キ、イ、ン、ウ、コ キ	人ヲハ欺クとも。天ハ欺レヌモノ ナリ	明心宝鑑	天理篇	2.9	同じ
63	人可瞞天不可瞞	ジン、ウ、カ、ア、フ、ソ、ウ、ン、ウ、コ ウ、マ、ツ	人ヲハダマカストモ天ハダマカサ レヌ	明心宝鑑	天理篇	2.9	同じ

81	寡言則省言 寡言則保身	カワシケンセンパン カワシケン	言語寡ケレハ。言ヲ省ク。色慾 寡ケレハ。身ヲ保ツ	明心宝鑑	正己篇《景 行録》	5.27	同じ
82	貪心害己・利 口傷身	タンスインハキ、リイ ケ。カヤシツ	貪心ナル者ハ。己ヲ害シ。利口ナ ル者ハ。身ヲ傷フ	明心宝鑑	正己篇太公	5.64	同じ
83	慾多傷身財多 累身	ヨクシヤンシツツアイトウ ルシツ	色慾多ケレハ。身ヲ累ハス ケレハ。身ヲ累ハス	明心宝鑑	正己篇老子	5.31	同じ
84	酒中不語真君 子財上分明大 丈夫	ツコウチョウ アユク キョウカガ アシヤ フシツガ ア、チヤ ツ	如何ヤウノことタリとも。酒ノ座 ニテ。云ハサルハ。真君子ナリ。 金銀財宝ノことヲ。分明ニイタス ハ。大丈夫ナリ	明心宝鑑	正己篇	5.73	同じ
85	成人不自在自 在不成人	ヂツツツ アツ アツ アツ アツ アツ アツ アツ ツツ	人ト成ル者ハ。自在ナラズ。自 在ナレハ。人ト成ラズ	①明心宝鑑 ②鶴林玉露	正己篇《新 刻前賢切要 明心宝鑑》 (2)	5.81	同じ
86	自見者不明自 是者不彰	ツツ カツアエ、アツ ツツ アツアエ、アツ ツツ	自己ノ見ヲ以テ。決断スルこと云 ハ。明カナラズ。自己ノ了簡ヲ以 テ。是トスルことハ。彰レス	明心宝鑑	正己篇 老 子	5.83	同じ
87	舍血噴人先汚 自口	アルエバ エツツ ヲエ ツ、ツツ。ウ	人ノ見ヲ以テ。ワルク云フ時ハ。先 ツ 我身ノことヲ。云カブアルト云 意	①明心宝鑑 ②羅湖野録	①正己篇太 公曰 ②卷二	5.85	①同じ ②含血噴人、先汚其口
88	良農不為水旱 不耕良賈不為 折閱不市	リヤノツツ アシヤ ツツ カツアツアツ ツツ アツ アツ	ヨキ農人ハ。水損日損アリト云へ とも。不耕ト云ことナシ。ヨキ 商人ハ。損失損亡アリト云へと も。不商ト云ことナシ	明心宝鑑	正己篇 荀 子	5.90	同じ
89	一行有失百行 俱傾	ヒツツツツバ ヒツツ ツ	一色ヲ。シゾコナエハ。種種ノこ とガ。ワルクナルト云こと	①明心宝鑑 ②少年進徳録	①正己篇太 公曰	5.104	同じ
90	借人典籍皆須 愛護凡有決壞 就即補治	ツツツ ツツツツツツツツ エ、アツ、ツツツ ツツツ ツツツツツツ ツ	人ノ書籍ヲ借ラハ。大切ニイタ セ。若壊フことアラハ。早速修フ クセヨ	①明心宝鑑 ②顔氏家訓	①正己篇 《顔氏家訓》	5.116	借人典籍、不可損壞而不还、皆 須愛護、凡有缺壞就為補治、此 亦士大夫百行之一也。
91	知足可樂受貪 則憂	ツツツツツツツツツツ ツツツツツツツツツ ツツ	足ルことヲ知レハ樂ミアリ。貪り 多ケレハ憂ヒアリ	明心宝鑑	安分篇《景 行録》	6.1	同じ

101	好食色貨利者 氣必吝・好功 名事業者氣必 驕	ハ、ウジ、スホカリ付 エ、キ化 ^リ カ。ウ コンシス ^ク 、ウ子 ^ト エ、 キ化 ^レ キ。ウ	美食好色貨財利息ヲ好ム者ハ其氣 質必ス吝キことアララン。功勳姓名 大事業ヲ好ム者ハ必ス其氣質 驕ルことアララン	明心宝鑑	省心篇《景 行録》	11.54	同じ
102	賢人多財損其 志・愚人多財 益其愚	ヒョウジ ^ク 、ソトカガ ^ク 、アノ ヲキ ^ク 、イワケ ^ク 、イジン トウガ ^ク 、アノ任 ^ク 、イロ	賢人財宝多ケレハ。其志ヲ損ス。 愚人財宝多ケレハ。其愚ヲ益ス	明心宝鑑	省心篇蘇武 日	11.57	賢人多財則損其志、愚人多財則 益其過
103	人貧智短 至心靈	ジ ^ク 、シ、ツツカトハホ 奴 ^ク 、カシ	貧ナレハ。ドংশシ。富ハ。カシコ ク成レト。云こと	明心宝鑑	省心篇	11.61	同じ
104	平生不作皺眉 事天下應無切 齒人	ヒ ^ク 、ソノ、エツ、ツツ エ、カミ ^ク 、ウツヒキ アノカ、ウツカツ	平生眉ヲ皺ルヤウノ。二ガ二ガシ キことヲセズンハ。天下二齒ヲ切 リ牙ヲ咬テ。罵ル者ハアルマジ	明心宝鑑	省心篇《击 壤詩》	11.66	平生不作皺眉事、世上應無切齒 人
105	有福莫享盡 福盡身貧窮 有勢莫使盡 盡冤相逢	ユホモホヤク、イホ イシンヒ ^ク 、ウキ ^ク 、ヨク ウツヒスガ、イシヤク 、イユンスヤクツク	福アラハ。コレヲ享ケ尽スヘカラ ス。福尽クレハ。身貧クナルナ リ。勢ヒアラハ。コレヲ使ヒ尽ス ヘカララス。勢ヒ尽クレハ。冤二逢 フナリ	明心宝鑑	省心篇	11.75	有勢莫倚尽
106	凡事無難學只 怕無心學	ツズ ^ク 、ウ、ホヒヨ ハ、ア、ウ、スビヨ	凡事学ヒガタキハナナシ。只恐クハ 学ブ心ナカラシ	①事林広記 ②西游記			①世上無難事、人心自不堅 ②世上無難事、只怕有心人
107	黃金千兩未 貴得人一語 勝千金	オウゴンニヒトウ イノジンイロシ ツキ	黄金千兩ハ。未タ貴キトスルニ足 ラス。人ノ一言ヲ得ハテ。千金ニ 勝レリ	明心宝鑑	省心篇	11.80	同じ
108	小艇不堪重載 深徑不互獨行	サヤ、ウ、エツ、カン チ、ヨク、イシキヤ ニドヒ	小艇ハ。重荷ヲ積ニタエス。深キ 徑チヲハ。獨リ行クヘカララス	明心宝鑑	省心篇	11.86	同じ
109	利可共而不可 獨謀可獨而 不可衆獨利 則敗衆謀則 泄	リイコヨクカク ^ク 、コト 、ス。ウコト、ウツ コウヨク、リイコ チヨク。ウツ	利ハ。人ト共ニヨ。獨ニテナス ヘカラス。謀ことハ。獨ニテナシ テ。衆ト共ニナスヘカララス。利ヲ 獨ニテ得ルトキハ必ス敗ル。謀ニ トヲ衆ト共ニ致ストキハ必ス泄ル	①明心宝鑑 ②省心錄	①省心篇 《景行録》	11.92	同じ

110	在家不 _レ 會 _レ 迎 _レ 賓客 出 _レ 外 _レ 方 _レ 知 _レ 少主人	ウ _レ アキヤ _レ ア _レ ヲ _レ ニ _レ シ ヒ _レ ガ _レ キ _レ エ _レ ハ _レ ハ _レ ツ ツ。チ _レ エ _レ ジ _レ ン	宿二在ルトキ。賓客ヲ迎ルルことヲ。ナサザル者ハ。外ニ出テ。初テ亭主トナル人ノ。少キことヲ知ル	省心篇	11.96	同じ
111	貧居鬧市無人 識富在深山有 遠親	ヒ _レ ソ _レ ナ。カ _レ ズ _レ カ _レ ハ ジ _レ ン _レ ア _レ ツ _レ ア _レ ソ _レ ツ ヤ _レ コ _レ ハ _レ コ _レ ソ _レ ツ _レ ン	貧キ人ハ。闹ナル町ノ中ニ居スレとも。コレヲ知ル者ナン。富ル人ハ。深山ノ内ニ在レとも。遠クヨリ親ム者アリ	省心篇	11.98	同じ
112	寧塞無 _レ 底 _レ 坑 _レ 難 _レ 離 塞鼻下 _レ 橫	ニ _レ ソ _レ エ _レ ウ _レ 。テ _レ ゲ _レ シ _レ ツ ソ _レ ニ _レ ヒ _レ 化 _レ ヤ _レ ツ _レ ク	イツソ _レ 底ノナキ坑ハ塞クとも。鼻下 _レ 横ハハ。塞カレヌ	省心篇《景行録》	11.102	同じ
113	天不生無 _レ 敵 _レ 之人 地不生無 _レ 根 _レ 之 _レ 艸	テ _レ ソ _レ ズ _レ エ _レ ウ _レ 。ロ _レ ツ カ _レ ジ _レ ン _レ デ _レ イ _レ ズ _レ エ _レ ソ _レ ツ ク。ケ _レ ツ _レ キ _レ ツ _レ シ _レ エ _レ ツ _レ ク	天ハ縁ナキ人ヲ生セス。地ハ根ナキ艸ヲ生セス	省心篇	11.128	同じ
114	成家之兒 _レ 惜 _レ 養 如 _レ 金 _レ 敗 _レ 家 _レ 之 _レ 子 _レ 用 _レ 金 _レ 如 _レ 糞	チ _レ ソ _レ キ _レ ヤ _レ ツ _レ カ _レ カ _レ エ _レ ツ _レ ク ソ _レ ツ _レ エ _レ キ _レ ソ _レ ハ _レ キ _レ ヤ _レ ツ _レ ク ケ _レ ツ _レ キ _レ ツ _レ シ _レ エ _レ ツ _レ ク	家ヲ成ス子ハ。養ヲ惜こと金ノ如ク。家ヲ敗ル子ハ。金ヲ用こと糞ノ如シ	省心篇	11.132	同じ
115	起人不要 _レ 趕 _レ 上 捉 _レ 賊 _レ 不 _レ 如 _レ 趕 _レ 賊	カ _レ ン _レ ソ _レ ツ _レ 。ヤ _レ 。カ _レ カ _レ ン シ _レ ヤ _レ チ _レ ヨ _レ ツ _レ エ _レ ツ _レ シ _レ エ _レ イ _レ カ _レ ツ _レ エ	人ヲ起ハ。趕上ヘカラス。賊ヲ捉フハ。賊ヲ起フニ如ス此語ハ。縦ヒ理アルことタリとも。十分ニ勝チヲ取ルナト云こと也	省心篇	11.136	同じ
116	豪家未必 _レ 長 _レ 富 貧家未必 _レ 必 _レ 長 寂寞	ア _レ 。ケ _レ ツ _レ カ _レ カ _レ ヒ _レ チ _レ ツ _レ ク ヤ _レ ツ _レ カ _レ カ _レ ヒ _レ チ _レ ツ _レ ク ヒ _レ チ _レ ヤ _レ ツ _レ ク _レ ヒ	大家タリとも。必ス長ク富貴ナルことハアアルマジ。貧家タリとも。必ス長ク寂寞ナルことハアアルマジ	省心篇	11.142	同じ
117	遠非 _レ 道 _レ 之 _レ 財 _レ 成 過度 _レ 之 _レ 酒	エ _レ ソ _レ ツ _レ イ _レ ダ _レ 。カ _レ カ _レ ツ _レ ツ _レ ク ア _レ イ _レ ツ _レ キ _レ コ _レ ト _レ 。カ _レ カ _レ ツ _レ ツ _レ ク	非道ノ財ヲ。遠ザケ。過度ノ酒ヲ。戒ムヘシ	省心篇 省心篇 神宗 皇帝御制	11.150	同じ
118	心行慈 _レ 善 _レ 何 _レ 須 _レ 努力 _レ 看 _レ 經 _レ 。意 _レ 欲 _レ 損 _レ 人 _レ 空 _レ 讀 _レ 如 _レ 來 _レ 一 _レ 藏	ス _レ イ _レ ヒ _レ ツ _レ ツ _レ ク _レ ケ _レ ヒ _レ ツ _レ ク ス _レ 。カ _レ リ _レ カ _レ キ _レ ノ _レ イ _レ ダ _レ ヨ _レ ツ _レ ツ _レ ソ _レ コ _レ ト _レ ツ _レ シ _レ エ _レ イ _レ ツ _レ イ _レ ツ _レ ツ _レ ク	心ニ慈悲ヲ行ハ。勤メテ經ヲ看ルニ及ハス。意ニ人ヲ損ササント欲セハ。如來ノ一藏ヲ讀とも。空シキことトナトナルヘシ	①省心篇 仁宗皇帝御制 ②	11.149	同じ

119	居必擇鄰交必擇友	キヨビ ^レ グ ^リ エリヤヤ、先 ^レ ツ ^レ ユウ	居セハ必ス隣リヲ擇ブヘシ。交ハ必ス友ヲ擇ブヘシ	①明心宝鑑 ②晏子春秋・雑上 ③歡喜冤家	①省心篇 神宗皇帝御制 ② ③第十九回	11.150	①同じ ②君子居必擇鄰、游必就士 ③居必擇鄰交択友
120	骨肉貧者莫疎 他人富者莫厚	カジ ^レ ビ ^レ エツヤ、モツウヤ、ジツアガヒ、モヘ、ヲ	親類ナラハ。貧シキ者タリとも。疎ンスルことナカレ。他人ナラハ富メル者タリとも。厚クスルことナカレ	明心宝鑑	省心篇 神宗皇帝御制	11.150	同じ
121	身披一織常思 織女之勞日食 三食每念農夫 之苦	シベ ^レ イリイイ、ヤンヌクニ、シツクマ、シヤサ、ムイオン、ノナカカク	身三件ノ衣ヲ着ハ。常ニ織女ノ勞ヲ思フヘシ。日二三度ノ飯ヲ喫セハ。毎ニ農夫之苦ミヲ念フヘシ	①明心宝鑑 ②唐太宗百字箴言	①省心篇 高宗皇帝御制 ②	11.151	①日食三餐 ②日食三餐、当思農夫之苦、身穿一縷、每念織女之勞
122	水至清則無魚 人至察則無徒	スイクツツインクエ、イユイ ^レ ツツカガ ^レ ツエ、ドク	水至テ清メハ魚ナシ。人至テ察カナレハ徒ナシ	明心宝鑑	省心篇《家語》云	11.155	同じ
123	家貧顯孝子世 亂識忠臣	キヤビ ^レ シヒエンヒヤ、ウツツインロウジツヨチ	家貧フソ。孝子ヲ顯ス。世亂レテ。忠臣ヲ識ル	明心宝鑑	省心篇	11.154	同じ
124	輕諾者信必寡 面譽者背必非	キナチエ、スイビ ^レ クセ ^レ イ、ハアメンヒイテ、ホ ^レ ビ ^レ イ	輕ク諾合者ハ。必ス信ト寡シ。面ノ前ニテ譽ル者ハ。必ス背ニテ非ル	明心宝鑑	省心篇	11.166	同じ
125	春雨如膏行人 惡其泥濘秋月 揚輝盜者憎其 照鑑	チュンニイジ ^レ ユイカ、ケクシツリ、キニ ニツツクアキヤイイ、 ウチエ、ウエンギ ^レ イ ヤ、ウツ	春ノ雨ハ膏ノ如クニシテ。田地ノ為メモ好ケレドモ。路ヲ行ク人ハ。地上ノ泥濘ヲ惡ム。秋月ハ輝リヲ揚テ。賤賞ノ為メモモ佳ケレドモ。盜ヲ作ル者ハ。遍處ヲ照鑑ヲ憎ム。凡ソ世間ノ事。平均ニハ。ナリガタシト云意	明心宝鑑	省心篇 許敬宗	11.167	春雨如膏、滋長万物、行人惡其泥濘。秋月如鑑(揚輝)、普照万方、佳人喜其玩賞、盜者惡其照鑑

126	凡大丈夫重名 節於泰山輕死 生於鴻毛	ワダス、ヂ、ヤウワウ ヤウミンシエイイイイ ヤウキウス、ソウエイ ホス。ウ	フ、ヘンツウ、チヤアアア 、ヂ、ソトハツエエウカ 古、キヤアウケンシツ	大丈夫ハ。前ヲ見ルこと明カニ ソノ。心ヲ用ユルこと剛キ故。如此 名節ヲ重ンジ。死生ヲ輕ニスル者 也	①明心宝鑑 ②省心録 ③省心雜言	①省心篇 《景行録》 ②卷四 ③	11.168	①大丈夫見善明、故重名節於泰 山；用心剛、故輕死生如鴻毛 ②大丈夫見善明、則重名節如泰 山；用心剛、則輕死生如鴻毛 ③大丈夫見善明故重名節於泰 山。用心剛故輕死生如鴻毛
127	不恨自家麻繩 短只怨他家古 井深	フ、ヘンツウ、チヤアアア 、ヂ、ソトハツエエウカ 古、キヤアウケンシツ	フ、ヘンツウ、チヤアアア 、ヂ、ソトハツエエウカ 古、キヤアウケンシツ	我家ノ繩ノ短キハ恨ズノ。人ノ家 ノ井ノ深ヲ怨ム。己力過チヲ知 ラヌメ。人ヲ怨ト云こと	明心宝鑑	省心篇	11.176	同じ
128	經目之事猶恐 未真 背後之 言豈足深信	キヤウカウス、カウコウウ イフホ、ウカウ シヤイフシヤイ	キヤウカウス、カウコウウ イフホ、ウカウ シヤイフシヤイ	目ニ經ンシ事ダニモ。高直ナラザ ルことアリ。況ヤ背後ニテ云フコ ト。何ンソソ深ク信スルニ足ンヤ	明心宝鑑	省心篇	11.174	同じ
129	天有不測之風 人有不測之禍	テンエカフ、ウエカフケン ジ、ユカフ、ウエカフケン ユカフ	テンエカフ、ウエカフケン ジ、ユカフ、ウエカフケン ユカフ	天ニハ測ラザルノ風アリ 人ニハ 測ラザルノ禍アリ	①明心宝鑑 ②合同文字 孟子	①省心篇 ②第四折	11.21	①②天有不測風云、人有旦夕禍 福 今惡死亡而樂不仁是猶惡醉而強 酒
130	方今之人惡死 凶而樂不仁是 猶惡醉而強酒	ウエカフ、ウエカフケン ユカフ	ウエカフ、ウエカフケン ユカフ	今ノ人ハ。死凶ヲ惡テ。不仁ヲ 樂。是乃チ醉フことヲ惡テ。酒 ヲ強ヒルガ如シ	明心宝鑑	省心篇	11.196	同じ
131	酒不醉人人自 醉色不迷人入 自迷	ウエカフ、ウエカフケン ユカフ	ウエカフ、ウエカフケン ユカフ	酒ハ。人ヲ醉ハシメザレとも。人 自ラ醉。色ハ。人ヲ迷ハシメザレ とも。人自ラ迷	明心宝鑑	省心篇	11.204	同じ
132	謙臣 將與實 在 家之將 家 榮必有言爭子	ケンチン、ヤウイフケン ジ、ユカフ、ウエカフケン ユカフ	ケンチン、ヤウイフケン ジ、ユカフ、ウエカフケン ユカフ	國ノ與ルことハ。謙メラ申ス。忠 臣ニ在ル也。家ノ榮ントスル時 ハ。必ス言争ヲ致ス。孝子有ル也	明心宝鑑	省心篇 《家語》	11.231	同じ
133	遠水難救近火 遠親不如近鄰	エンスイケンチキ、ソク ウエカフケン、ジ、エイ キ、ソウ	エンスイケンチキ、ソク ウエカフケン、ジ、エイ キ、ソウ	遠キ水ハ。近キ火ヲ。救ヒカカ タシ。遠キ親類ハ。近キ隣ニ如ス	明心宝鑑	省心篇	11.226	同じ
134	白玉投於淤泥 不能汚穢其色 君子行於濁地 不能染亂其心	ハクイ、ウエカフケン ケン、ジ、ユカフ、ウエカフケン ユカフ	ハクイ、ウエカフケン ケン、ジ、ユカフ、ウエカフケン ユカフ	白玉ハ。淤泥ノ内ニ投ケ入レルト 云へとも。其色ヲ汚スこと能ハ ス。君子ハ。濁地ヲ行クト云へト モ。其心ヲ染メルこと能ハス	明心宝鑑	省心篇《益 智書》云	11.226	同じ

135	清貧常樂濁富多憂	ツツビ、ツチ、ヤコヂ ツツビ功	清ク貧キ人ハ、常ニ楽ム。濁リ富ム者ハ、憂ヒ多シ	濁心宝鑑	省心篇《周礼》	11.237	同じ
136	無故而得千金不有大福必有禍	ク、カルクアヒユキ アエガガア、フヒ エガア、カ	何ノ故モナクメ。不圖千金ヲ得ハ。大福ハアラスメ。必ス大禍アラン	明心宝鑑	省心篇蘇東坡云	11.187	同じ
137	德微而位尊智小而謀大無禍者鮮矣	テウルクイヲカカス ヤ、カルクメ。ウア 、ク、ヲカ、スエ シ、	徳微ニメ。位尊ク。智小ニメ。謀大ヒナル如キノ者ハ。禍ヒナキコト鮮シ	明心宝鑑	省心篇《易》	11.209	同じ
138	金玉者釗不可食寒不可衣古以殺昂為貴也	キツキ、キツ、コ ジ、ハツツ、コク、ツ 、ウカク、ユ、ヲカ 仁、	金玉ハ宝タリト云へとも。飢タル時。食こと能ハス。寒エタル時。衣ルこと能ハス。是故二古ヘヨリ。米殺錦帛ヲ。貴シトスル也	明心宝鑑	省心篇《漢書》	11.225	同じ
139	貧窮患難親戚相救婚姻死喪隣保相助	ヒツギ、ヨクカクツイ ツツエヤキホツツ スカクリンハ。ウキ ツツ、	貧窮患難ノことハ。親類共。コレヲ相救フ。婚礼葬喪ノことハ。隣家共。コレヲ相助ク	①明心宝鑑 ②増広賢文	①立教篇 古靈陳先生為仙居令、教其民曰	12.7	同じ
140	癡人畏婦賢女敬夫	ウツジ、ツツイ、ヒシ ニユキツツ	癡人ハ。妻ヲ畏レ。賢女ハ。夫ヲ敬フ	明心宝鑑	治家篇太公曰	14.7	痴人畏婦、賢婦敬夫
141	婚娶而論財莫窮之道也	ホツツエイロホツツ アイ、ロウツツガ ハ、	婚礼ヲスルニ。財宝ノコトヲ論スルハ。夷ノ道ナリ	明心宝鑑	治家篇文中子曰	14.15	同じ
142	兄弟為手足夫婦如衣服衣服破時更得新手足斷時難在續	ヒツヂ、イノイカクツ ウ、ジ、ユイ、ツ イ、フホ、ウズ、ウダ テスイツツツハハス カクツ、イ、	兄弟ヲ手足トシ。夫婦ハ衣服ノ如シ。衣服破ル時ハ。新ラシキニ更ムヘシ。手足断ル時ハ。再ヒ續キガタシ	明心宝鑑	安義篇庄子云	15.3	同じ

日本語訳は便宜上(子)は(ず)に、(7)は(こと)に、(9)は(とも)に変えた。
各「順」欄の冒頭の「1～15」は、1「継善篇」、2「天理篇」、3「順命篇」、4「孝行篇」、5「正己篇」、6「安分篇」、7「存心篇」、8「戒性篇」、9「勸学篇」、10「訓子篇」が、また下巻には11「省心篇」、12「立教篇」、13「治政篇」、14「治家篇」、15「安義篇」の各篇を表している。便宜上付した。

(作成者 歌岡)

「表1」を概観して二つの大きな特徴が明らかになった。一つは、142条で構成される「常言」の出典の内、第54条（「常言」には順序の番号は記していないが、ここでは便宜上、番号を記した）以降は3箇条を除いてすべて『明心宝鑑』であるということである。二つ目は第1条から第53条までは『明心宝鑑』を含めて数多くの「白話小説」を中心とした書籍の可能性が考えられるということである。

3-1. 「白話小説」等

第1条から第53条までの出典の中でも特に注目に値するのは所謂「白話小説」と言われる『水滸伝』（19箇所）、『西遊記』（6箇所）、『三国志演義』（6箇所）、「三言二拍」（三言＝『古今小説』・『喻世明言』、『警世通言』、『醒世恒言』、二拍『初刻拍案驚奇』、『二刻拍案驚奇』）（12箇所）、『儒林外史』（2箇所）、『紅樓夢』（1箇所）からの引用（重なる場合もある）が多いことである。

これら以外にも、『五灯会元』（仏教禅宗史書、4箇所）、『景德伝灯録』（禅宗灯史、2箇所）、『増文賢文』（児童啓蒙書、2箇所）、『論語』（2箇所）、『孟子』（1箇所）、『左伝』（1箇所）からの引用（重なる場合もある）が見られる。

冠山は極めて多くの書籍に触れていたことが分かるが、これは唐通事の学習過程とも関連がある。唐通事はまず、発音を学ぶために、唐音で『三字経』『大学』『論語』『孟子』『詩経』等を読み、それから「恭喜」「多謝」「請坐」などの二字話の句、さらに「好得緊」「不晓得」「吃茶去」などの三字話の句と四字以上の句を学ぶ。そのための教科書が、前述の通事本『長短拾話唐話』『訳家必備』『養兒子』等である。さらに、先生と一緒に『今古奇観』（「三言」の選集）『三国志』『水滸伝』『西遊記』などの白話小説を読み、その次には、『福惠全書』『資治新書』『紅樓夢』『金瓶梅』などの自習が求めら

れた。⁽¹⁰⁾なお『水滸伝』からの引用が最も多い背景には、冠山が同小説の翻訳をすでに準備しつつあったことが考えられる。

第1条から第53条までの出典に関して言うと、「表1」に掲げた書籍以外にもその他書籍の可能性は十分にあると考えられる。今後の課題の一つである。

3-2. 『明心宝鑑』

『明心宝鑑』(1368)は中国明代の勸善書の一つで、儒教道徳を中心とした、儒教・道教・仏教の三教合一思想が書かれている。条目の数で見ると儒教・道教・仏教の順で多い。また『明心宝鑑』は、『論語』、『孟子』、『莊子』、朱子や史書その他から選んだ、勸善、勸学、勤勉、孝行、婦徳の勧めなど人生論や処世論を多く収集している。

日本における『明心宝鑑』の伝来ルートは、室町時代(1336-1573)に五山僧を通して中国からもたらされたものと、安土桃山時代(1568-1603)の文禄・慶長の役の折に、朝鮮から輸入されたものとの2通りがあると言われる。⁽¹¹⁾しかし、日本における『明心宝鑑』の本格的な受容は江戸時代である。そのことは、寛永以降(1624-)『明心宝鑑』が約80年間、版を重ねたことと、江戸時代の著名な儒学者である藤原慢窩や林羅山をはじめ、儒学者・僧侶・国学者・神道家・戯作者などの知識人たちに、広く『明心宝鑑』が読まれた実態を把握することによって明らかにされている。⁽¹²⁾

『明心宝鑑』は上下2巻からなっている。具体的には上巻には、「継善篇」、「天理篇」、「順命篇」、「孝行篇」、「正己篇」、「安分篇」、「存心篇」、「戒性篇」、「勸学篇」、「訓子篇」が、また下巻には「省心篇」、「立教篇」、「治政篇」、「治家篇」、「安義篇」、「遵礼篇」、「存信篇」、「言語篇」、「交友篇」、「婦行篇」がある。

「常言」の第54条から最後の第142条までの3箇条(第73条、第106条、

第130条)を除いて、残りの86箇条は全て『明心宝鑑』から収集されたものである。掲載された順に並べてみると、継善篇(2箇条続けて)、省心篇(1箇条、以下括弧のないものは全て1箇条)、継善篇、天理篇、省心篇、天理篇(4箇条続けて)、順命篇(2箇条続けて)、正己篇、継善篇、孝行篇、継善篇(12箇条続けて)、正己篇(10箇条続けて)、安分篇、存心篇(4箇条続けて)、戒性篇、訓子篇、省心篇(41箇条続けて)、立教篇、治家篇(2箇条続けて)、安義篇となっており、省心篇の計43箇条、継善篇の計17箇条、正己篇の計11箇条が際立って多いことがわかる。しかも掲載については基本的には上巻、下巻の各篇の順に沿い、更に条目もそれぞれ小さい順から並べられており、冠山は『明心宝鑑』にかなり精通していたと考えられる。

『唐話纂要』に収録された条目数 / 『明心宝鑑』の条目数

上巻	解釈	条目数	回数順	下巻	解釈	条目数	回数順
継善篇	善を継続する。	17/46	②	省心篇	内心で自省する。	43/251	①
天理篇	天道、自然の法則。	5/19	④	立教篇	教化を立てる。	1/17	⑧
順命篇	天命や命令を順ずる。	2/16	⑦	治政篇	政務治める。	×	
孝行篇	親孝行をする。	1/19	⑧	治家篇	一家を治める。	2/16	⑦
正己篇	自分の思想や言行を正す。	11/119	③	安義篇	道義を持って生きる。	1/5	⑧
安分篇	規律を守り、忠実かつ正直でおとなしい。	1/11	⑧	遵礼篇	礼儀を遵う。	×	
存心篇	心に抱える。	4 (5)/83	⑤	存信篇	信義を堅持する。	×	
戒性篇	心の欲張りを戒める。	1/14	⑦	言語篇	話すこと。	×	
勸学篇	勉強を激励する。	×		交友篇	交友すること。	×	
訓子篇	子を説教する。	1/20	⑧	婦行篇	女性の言行徳など。	×	
*《新刻前賢切要明心宝鑑》(1)		3(1)	⑥	《新刻前賢切要明心宝鑑》(2)		2(1)	⑦

(*)は、1585年万歴皇帝によって編集された『明心宝鑑』上下二巻の最後に付けられたもの。

(作成者 耿山)

以上から「常言」の出現順に関して考えられることは、第1条～第53条は、冠山がそれまで読んだことのある書籍、特に白話小説、その中でも特に『水滸伝』を中心に選び掲載し、その際、文字数の少ないものを優先し、第

54条～第142条は、それまでの内容を整理する目的で、勸善書『明心宝鑑』の篇の順に沿って、冠山の関心度の高いものから順に選んで収載したということである。第54条～第142条の条目は、第1条～第53条のものとは比べると文字数が多くなっている。次第にレベルを上げていくというように、学習者に配慮したものであろうか。

4. 「常言」に見る人生訓、処世訓

4-1. 『水滸伝』の視点から

冠山が「水滸伝」19箇所（内1箇所は「明心宝鑑」と重なる）から学んだものを「人生訓」「処世訓」「人の世の道理」の視点から概観すると以下の様に言うことができる。

「人生訓」的な内容として、「2. 欲要生富貴須下死工夫（フウキニナラント思ハ、ズイブン工夫ヲイタスベシ）」であるとか、また「処世訓」的な内容として、

「3. 把官路當人情（シフトノ物デ。アイムコ。モテナスト云フこと）」、「22. 單絲難線孤掌不鳴（獨リニテハ。何事モ成就シガタシト云こと）」、「23. 如漆似膠（中ノヨヒこと）」、「27. 不怕官只怕管（公儀ハコハクナクシテ。支配スル人が。コハイト云こと）」、「30. 有錢可以通神（錢サエアレハ。神通モナル）」、「32. 遠親不如近鄰（遠キ親ルイハ。近キ他人ニ如ス）（「明心宝鑑」）」等があげられる。

また「人の世の道理」的な内容として、「15. 好事不出門・悪事傳千里（ヨキことハ。門ヨリ外ニ聞エスシテ。アシキことハ。千里ノ外ニ聞ユ）」、「18. 好漢惜好漢猩猩惜猩猩（豪傑ハ。豪傑ヲオシミ。猩猩ハ。猩猩ヲオシム）」、「19. 物悲其類（物ハ己カ類ヲ悲ム）」、「20. 兎死狐悲（頗ル上下同シ意）」、「40. 寡不可敵衆（小勢ハ大勢ニ敵スベカラズ）」、「46. 有縁千里易相

逢無縁對面難相見（縁アレハ。千里ヲ隔テモ。逢ヒ易ク。縁ナケレハ。向エ二居テモ。逢ヒガタシ）」等が見られる。

4-2. 『明心宝鑑』の視点から

ここでは取載の多い順に、冠山が如何なる教訓に注目していたのかを概略的に述べる。

4-2-1. 「省心篇」（44箇条）

・遠くの親類より近くの他人のほうが大切であるが（32. 「遠親不如近鄰」、親類は助け合わねばならないし（120. 「骨肉貧者莫疎他人富者莫厚」、良き他人は選ばねばならない（119. 「必擇鄰交必擇友」）。また選ぶ際に、軽く請け負う者や人前で褒める者には気をつけなければならない（124. 「輕諾者信必寡面譽者背必非」）。

・他人をその人の顔を見て、その人の善悪を判断してはならないが（38. 「人不可貌相海水不可斗量」、人の心を知ることは難しい（56. 「画虎画皮難画骨知人知面不知心」、128. 「經日之事猶恐未真 背後之言豈足深信」）。

・人は貧すれば鈍する故に、勤勉に働き人並みの富を得るように生まれてきたが（103. 「人貧智短 福至心靈」、59. 「大富在天小富在勤」、113. 「天生無祿之人地不生無根之艸」）、時として不測の出来事に遭遇することがある（129. 「天有不測之風人有不測之禍」）。

・衣食が足りると淫らな欲が出て来、また財宝が多いと志を損ないがちなので（99. 「飽煖思淫慾饑寒起盜心」、102. 「賢人多財損其志・愚人多財益其愚」）、そうならないように貧困の時のことを、忘れないようにしなければならない（100. 「長思貧難危困自然不驕 每思疾病熬煎並無愁悶」）。

・何事も特に利益と関わる際には、一人で行わないようにすべきであるが、多くの人で謀ると漏れてしまう（108. 「小船不堪重載溪徑不宐獨行」、

109. 「利可共而不可獨 謀可獨而不可衆 獨利則敗 衆謀則泄」。

・福や勢いは大切にし、節約しなければ、富貴は長くは続かない (105. 「有福莫享盡 福盡身貧窮 有勢莫使盡勢盡冤相逢」 114. 「成家之兒惜糞如金 敗家之子用金如糞」 116. 「豪家未必長富貴 貧家未必長寂寞」)。

・人は酒に酔いやすいので (131. 「酒不醉人人自醉 色不迷人人自迷」)、過度の酒を慎まなければならない (117. 「遠非道之財 戒過度之酒」)。

・慈悲の心は大切であるので (118. 心行慈善何須努力 看經 意欲損人空讀如來一藏)、それを更に進める為に、衣を着る際には布を織ってくれた人のことを、また食事をする時は農夫の苦しみに思いを致さなければならない (121. 「身披一縷常思織女之勞 日食三餐每念農夫之苦」)。

・孝子や忠臣は得がたいが (123. 「家貧顯孝子 世亂識忠臣」)、孝子や忠臣の家の繁栄や国の興隆にとって大切な存在である (132. 「國之將興實在諫臣 家之將榮必有言爭子」)。

・丈夫、君子、清廉潔白な人間を目指すべきであるが (126. 「凡大丈夫重名節於泰山 輕死生於鴻毛」、134. 「白玉投於淤泥不能汚濕其色 君子行於濁地不能染亂其心」、135. 「清貧常樂濁富多憂」)、同じ事柄でも人によって受け止め方は平均していないので (125. 「春雨如膏 行人惡其泥濘 秋月揚輝 盜者憎其照鑑」)、他人に対してはあまり厳しく接しないほうがよい (122. 「水至清則無魚 人至察則無徒」)、あまり追い込まないほうがよい (115. 「趕人不要趕上 捉賊不如趕賊」)。

4-2-2. 「繼善篇」(16箇条)

・善を積むことによって、一家にも個人にも益が巡って来るし、長寿も得ることができるので (54. 「積善之家必有餘慶」、70. 「善以自益 惡以自損」 76. 「仁慈者壽 凶暴者亡」)、善いことは望んで積極的に行うべきである (69. 「善事雖貧 惡事莫樂」、72. 「見善如渴 聞惡如聾」)。

・人の為に善や恩を施すことにより、自らが善や施しを受けることができる（67.「恩義廣施人生何處不相逢讐冤莫結路逢險處難迴避」、71.「與人方便就是自家方便」、77.「為子孫作富貴計者十敗其九為人行善方便者其後受惠」）。従って、自身に善くしてくれる者には、善くしてあげなければならない（75.「於我善者我亦善之於我惡者我亦惡之」）。

4-2-3. 「正己篇」（11箇条）

・志ある者は少しの挫折で、自身の目標を諦めてはいけない。努力しなければならない。（88.「良農不為水旱不耕良賈不為折閱不市」、85. 成人不自在自在不成人）。

・色欲や財宝に対する貪心は、身を滅ぼすので、それらを克服するために小欲を保ち、丈夫を目指さなければならない（82.「貪心害己・利口傷身」、83.「慾多傷身財多累身」、81.「寡言則省言痴 寡慾則保身」、84.「酒中不語真君子財上分明大丈夫」）。

・人の悪口を言わない、人から借りた物は大切にし、もし壊したらすぐに直さねばならない（87.「含血噴人先汚自口」、90.「借人典籍皆須愛護凡有決壞就即補治」）。

・一つ間違いを犯すとその後もその傾向が続くので、自己の見解に固執してはいけない（89.「一行有失百行俱傾」、86.「自見者不明自是者不彰」）。

4-2-4.

① 「天理篇」（5箇条）

・天は騙すことも欺くこともできない絶対的なもので、何事も天によってはじめて成就することができ、天のお陰で、善いことをすれば善い報いがあり、悪いことをすれば悪い報いがある（62.「人可欺天不可欺」、63.「人可瞞天不可瞞」、58.「謀事在身成事在天」、61.「種瓜得瓜種豆得豆」）。

②「存心篇」(4箇条)

・立身出世を望むなら人当たり好くして、事を荒立てないようにしなければならない。そして賢者や才能ある人間を目指さなければならない(93.「柔弱護身之本剛強惹禍之由」、92.「若要做快活 必須大事化小事小事化沒事」、95.「推賢舉能面無慙色」)。

③「順命篇」(2箇条)

・全て天命によってなされた結果であるので、一喜一憂してはいけない(64.「萬事不由人計較都是命安排」、65.「臨財無苟得臨難無苟免」)。

④「治家篇」(2箇条)

・愚かな夫は妻を恐れ、貞淑な妻は夫を尊敬する(140.「癡人畏婦賢女敬夫」)。

⑤「孝行篇」(1箇条)

・自分の子供を持って初めて、親の恩を知る(68.「養子方知父母恩立身方知人辛苦」)。

⑥「安分篇」(1箇条)

・知足が善い生き方である(91.「知足可樂彊貪則憂」)。

⑦「戒性篇」(1箇条)

・どの家にもそれぞれ悩みを抱えている(96.「短家家有炎涼處處同」)。

⑧「訓子篇」(1箇条)

・自己を教化し、他者を教化することは最大の喜びである(97.「至樂莫如讀書至要莫如教子」)。

⑨「立教篇」(1箇条)

・貧困や困難な時は親戚が助け合い、婚礼や葬式は近隣が助け合う(139.「貧窮患難親戚相救婚姻死喪隣保相助」)。この内容は「省心」の中でも取り上げていて、冠山は人間相互の助け合いを重視していた。

⑩「安義篇」（1箇条）

・兄弟は特に助け合いをしなければならない（142. 「兄弟為手足夫婦如衣服衣服破時更得新手足斷時難在續」）。

5. むすびに

「常言」は唐通事であった冠山が通事本から影響を受けて、それまで身につけた人生訓や処世訓が掲載されているということが出来る。そして冠山が特に注目していた内容は、掲載の多かった『明心宝鑑』の「省心」「継善」「正己」であった。勧善懲悪の天の理に従い、己の心を省みそして正すことに努力するという内容である。

「常言」の第1条から第53条は、冠山がそれまで触れた書籍、特に『水滸伝』を中心とした白話小説からの人生訓や処世訓に関する引用が多い。これは唐通事の教育課程と密接な関係があるということが出来る。第54条から最後の第142条までは3箇条を除いて全て『明心宝鑑』からの引用である。『明心宝鑑』の上下巻の各「篇」に沿って冠山が注目した条目が選ばれ、かつ各「篇」の順番に従って掲載されている。第1条から第53条までの内容を、『明心宝鑑』を使って整理しようと考えたのかも知れない。掲載の手順等から考えると、冠山はかなり『明心宝鑑』に精通していたと言える。ただ、冠山に関するこれまでの資料からすると、『明心宝鑑』とどのような出会いがあったのかは不明である。今後の課題としたい。

注

- (1) 若木太一「唐話辞書・東京語辞書・朝鮮語辞書」『辞書遊歩 — 長崎で辞書を読む』九州大学出版会2004. 7 pp.3-12、太田哲郎「江戸中期 唐話を導いた岡嶋冠山」『長崎歴史協短信』325号平成21年8月20日、神林裕子「江

- 江戸時代における中国近世語の受容」『中国研究集刊』(19) 大阪大学1997. 1 p102
- (2) 岡田袈裟男「岡島冠山における唐話学の方法 — 改めて冠山学を考える」『江戸異言語接触』笠間書院2009. 9 pp227-242
- (3) 若木太一「唐話辞書・東京語辞書・朝鮮語辞書」前掲 pp3-12
- (4) 神林裕子「江戸時代における中国近世語の受容」前掲 p97
- (5) 神林裕子「江戸時代における中国近世語の受容」前掲 p98
- (6) 神林裕子「江戸時代における中国近世語の受容」前掲 p104
- (7) 中村春作『東アジア海域に漕ぎ出す5 訓読から見なおす東アジア』東京大学出版会2014. 7 pp110-122
- (8) 藍弘岳『漢文圏における荻生徂徠』東京大学出版会2017.12 p273
- (9) 大島吉郎「『唐話纂要』の『常言』に関する幾つかの問題について」『中国言語文化学研究』第6号大東文化大学大学院中国言語文化専攻(2017) pp57-59
- (10) 藍弘岳『漢文圏における荻生徂徠』前掲 p273
- (11) 成海俊「日本の『明心宝鑑』と五大僧」『日語日文学』第50輯大韓日語日文学会2011. 5 p310
- (12) 成海俊「日本の『明心宝鑑』と五大僧」前掲 pp314-317